



壺

みるか？

みない

みなよ

みたら？

みいる



ミマス

みてねっ！



式



参

壺：榎忠 Photo: Yoshisato Komaki  
式：森村泰昌 肖像 (ファン・ゴッホ) / 小 1985-1992  
参：伊藤隆介  
四：MIMAS 夜景



四

## 札幌宮の森美術館

MIMAS

2度目のグランドオープン 2012年11月11日 [日] 16:00

オープニングイベント参加者募集 要予約 10月22日(月) 10:30 より予約受付開始

オープニングイベント / ①榎忠 祝砲パフォーマンス ②森村泰昌トーク+映像作品上映 ③伊藤隆介 アヴァンギャルド映画上映  
入場料 / イベント+企画展+コレクション展+レセプション 一般 1,000円 高大生 800円

主催：札幌宮の森美術館 企画：NPO 法人 CAPSS 後援：札幌市 札幌市教育委員会

お問合せ：札幌宮の森美術館 011-612-3562

<http://www.miyanomori-art.jp>

# 森村泰昌展 美術史としての私[抄]

2012年11月12日[月]—2013年2月25日[月]

1985年以来、写真を使ったセルフポートレイトを造り続ける森村泰昌。名画の中の人物や銀幕を飾る大女優、20世紀の偉人たち。誰もが良く知る人物や、画中のリングやヒマワリに扮した森村のユニークな自画像は、作家と作品と社会をめぐる現代芸術が内包するさまざまなテーマを浮かび上がらせながら、見る者の目を釘付けにしてしまう不思議な魅力を放っています。

「森村泰昌展 美術史としての私(抄)」では、森村の主要作のひとつである通称「美術史シリーズ」からその嚆矢となったゴッホの肖像などの約30点を精選して展覧いたします。

名画の登場人物になりきるために、それが描かれた時代背景や経緯、画家の社会的地位や制作時の心情など、こと細かに研究するという森村。しかし、成り切ろうとすればするほど否応なく気づかされる画中の人物と自身との差異。翻ってそれは「自分とは何か?」という問いに自らが対峙することでもあります。果てしなくこだまする「自分とは?」との問いの中で、繰り返し他人になってニセの名画に入り込む芸術家。それを展示して見せる美術館。そして鑑賞者...「美術史シリーズ」は、芸術作品を取り巻く制度をも足下から揺さぶる危険に満ちています。作者の深い洞察と鋭い分析によって周到に準備されたそれらは森村泰昌作・演出のパロディ劇を飾る舞台装置のひとつなのかも知れません。

ゲスト・キュレーター：長澤章生



## 森村泰昌(もりむら やすまさ) 略歴

1951年大阪生まれ、京都市立芸術大学卒業。  
1985年、ゴッホの自画像に自らが扮した写真によるセルフポートレイトを発表。以後一貫して他者に扮装した自身の肖像をつくり続ける。  
1988年、「ヴェネツィア・ビエンナーレ・アペルト'88」に選出され、以後、国際的に活動を展開している。  
古今東西の名画を題材にした「美術史シリーズ」、映画女優に扮する「女優シリーズ」などを手がけるほか、映画や芝居、アートディレクションなどその活動は多岐に渡る。  
2002年東川賞、2007年芸術選奨文部科学大臣賞、2011年紫綬褒章を受章。

開館時間：10:30-19:00

休館日：火曜日（祝日と振替休日を除く）、12月26日[水]-1月4日[金]

入館料：(企画展+コレクション展)：一般800円 シニア(60歳以上)700円 高大生600円 中学生以下無料

主催：札幌宮の森美術館 企画：NPO法人CAPSS 後援：札幌市 札幌市教育委員会

## 本館展示室1 コレクション展1

### Life=Works=Projects

### クリストとジャンヌ＝クロード

布やロープを使った大規模な野外作品で知られるアメリカの協同アーティスト、クリストとジャンヌ＝クロード。

「Life=Works=Projects」はそのタイトルどおり、アーティスト最初期の貴重な作品から、代表作、現在進行中のプロジェクトまでを一同に概観するものです。惜しくもジャンヌ＝クロードは2009年に他界しましたが、クリストの新たな創造に傾ける情熱は、77歳の今も衰えを見せることはありません。そのアーティストが「アジア、オセアニア圏で最大かつ最良」と賞賛した札幌宮の森美術館のクリストとジャンヌ＝クロード・コレクション。ぜひ時間をかけてじっくりとお楽しみください。

## 本館展示室2 コレクション展2

### 日本美術—前衛の戦後から多様の現在へ

大正期前後、民主化運動の盛り上がりや背景に日本の前衛美術はその活動を本格化させて行きました。第二次世界大戦後、美術の拠点が米国アメリカへと移行する中、アーティストたちは自らの表現を求めて試行を繰り返し、それらはやがて「デモクラート」や「具体」といった前衛芸術家グループや、「もの派」と呼ばれる一連の動向などにつながって行きます。

本展では、今日、世界的にも再評価の機運が高まっているこれら世代のアーティストの作品を中心に、70年代以降急速に発展する情報社会の中で、独自の世界を展開する現代アーティストたちの多様な表現の一端を、美術館コレクションによりご紹介します。

## 2度目のグランドオープンニング・イベント 2012年11月11日[日] 16:00

館内3つの展示室のプレビューに加え、榎忠、森村泰昌、伊藤隆介の3氏によるグランドオープンニングイベント、および歓迎レセプションを開催いたします。

### <イベント参加申込み方法>

予約受付開始：10月22日(月)10:30～  
お申込方法：HPの申込みフォーム又はお電話にて  
<http://www.miyanomori-art.jp> TEL 011-612-3562

### 森村泰昌/トーク+映像作品上映

本館新展示棟のオープン記念企画展では、ゴッホやレンブラントなど名画の中の人物に扮したセルフポートレイト、通称「美術史シリーズ」を披露してくれる森村が、アーティストトークとあわせて映像作品を公開します。

### 榎忠/祝砲パフォーマンス

08年「この男、危険。榎忠展」で北海道初上陸を果たした神戸のアーティスト、エノチュウが再び宮の森にやってくる。「大砲を造る男」の異名をもつ彼が当美術館のために制作した「Kamui 77.5mm C2H2」による祝砲パフォーマンス。



上 森村泰昌 肖像(ファン・ゴッホ) / 小 1985-1992  
下 森村泰昌 批評とその愛人4 1989

## 旧館グラフィック・ギャラリー

### 日本現代版画のパイオニアたち

版画が芸術の一ジャンルとして確立されて行く、その先鞭を切った創作版画運動の時代から、戦後、日本の現代版画の黄金時代を担った版画家、洋画家、日本画家の版画作品を中心にしたコレクション展示。



※旧館グラフィック・ギャラリーは、平日の月水木のみ一般公開

### 榎忠 祝砲パフォーマンス

森村泰昌 トーク+映像作品  
伊藤隆介 アヴァンギャルド映画上映  
入場料：イベント+企画展+コレクション展+レセプション  
一般1,000円 高大生800円

### 伊藤隆介/アヴァンギャルド映画上映

映像作家として実験映画やユニークな映像インスタレーション作品を発表。新聞、雑誌で活躍する批評家としても知られる札幌在住のアーティスト伊藤隆介が、美術館の外壁を使って自作映画の上映を試みます。

**札幌宮の森美術館**

〒064-0952  
札幌市中央区宮の森2条11丁目2-1 MMG  
Phone: 011-612-3562 FAX: 011-612-3560

開館時間：10:30-19:00 (入館は18:30まで)  
休館日：火曜日(祝日と振替休日を除く)  
駐車場：有り(結婚式場と併設のため、土日はご予約のお客様で駐車場はご利用出来ない場合がございます。)  
交通機関：JR札幌駅より車で10分/地下鉄東西線  
円山公園駅より車で4分/徒歩17分  
地下鉄東西線「円山公園駅」バスターミナルから  
JR北海道バス  
円14「宮の森シャンツェ前」行き、  
円15「円山西町2丁目」「円山西町神社前」行き  
乗車「宮の森1条10丁目」下車徒歩3分

U R L : <http://www.miyanomori-art.jp>  
twitter: miyanomoriart



2012.10 ギョム・ボタジ再度来日し、美術館の外壁の修復工事を行います。

**札幌宮の森美術館**  
MIYANOMORI INTERNATIONAL MUSEUM OF ART, SAPPORO